

ひらほく新聞

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

「ひらほく新聞」で検索!
★感謝で向かう継続13年目へ★
<http://www.hirahoku.com/>
☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

運がいい人の最大の特徴は「絶対的」な運がいいこと



★対談動画の一部が公開されています

2001年、浅見帆帆子さんが24歳の時に書いた『あなたは絶対! 運がいい』は現在に至るまでのロングセラー。著者ご本人が、「大事なことはすべてあの本に書いてあった」と、20年以上経った今でも実践、再確認の日々とのこと。実に多くの方々から、読んで人生が変わったという体験談が寄せられており、今回の対談の共著者、鴨頭嘉人さんもお一人。悩めるこの現代こそ、その教えを『あなたは絶対! 運がいい』の「秘密」からあらためて学びたい。

運をよくする実験

当時、ロンドンにいた浅見さんが「運をよくするために、今の自分ができていることって何だろう?」と思いめぐらして思いついたのは、「幼稚園で習ったことがあるような道徳的なこと」で、それを実験のつもりで徹底的にやった。道に落ちていたゴミを拾う、電車のなかでお年寄りに席を譲る、笑顔で挨拶する、お世話話になつてくれる方の家事のお手伝いをする、自分の部屋をいつもキレイに掃除するなど、日常生活でできるちょっとしたことがほとんどだった。そして、「今こうやってロンドンにいて好きな勉強をさせてもらえて、なんてありがたいことなんだろう」と感謝することも忘れなかった。

「徳を積む行い」と「感謝すること」の実験を徹底して続けた結果とは...。再度不動産屋さんに行った際、前回と同様の長蛇の列に並んだ時のこと。ちょうど自分の順番が回ってきた時、近くのFAXがなり、「まさに今、あなたがお探しの理想の物件に空きができました」とのこと。「運というものは、自分の言動次第で本当によくなることができるんだ」と感動した。そして今回は偶然よかっただけかもしれない、本当かどうかとさらに実験を続けた。やってみたら意外と自分が気持ちよくなったから続けられた。いいことだからとか、正しいことだからではなく、「気持ちがいい」から続けてみると、さらに運が変わった結果としか思えないことが次々に起こった。

将来の幸せな自分の姿をイメージ

行き詰まった時には「将来幸せに仕事をする自分の姿をイメージ」して、目の前にあることに集中する。かつての母親からの言葉がずっと生きている。

「あなたが何年後かに、自分がすごく幸せで居心地のいい環境で仕事をしている姿をイメージしなさい。そして、今日の前にあることを一生懸命に取り組み、必ず道はつながるはずよ!」そして、集中して徹底的に実践した結果、こうして「本を出す」という幸せな仕事につながってきた。

鴨頭さんの書籍との出会い

25年間活躍したマクドナルドを辞めて、夢いっぱい独立した講演家の道。ところが、いざフタを開けると、仕事ゼロ、仲間ゼロ、収入ゼロ...、養うべき妻子もいて人生のどん底でついに大号泣。そして、この最悪の状況から、自分を救ってくれる本はないか...と書店をウロウロ、偶然本のタイトルに惹かれて手に取ったのが『あなたは絶対! 運がいい』だった。

なぜか、「今、この本を

読むタイミングなんだ」という確信。「あつ、これだいいんだ。これまでと同じように、自分の信じたことを続けて生きていこう」と素直な気持ちで前を向くことができた。読めば読むほど、ゼロになっていた自分のエネルギーを満タンにするまで回復させてくれた。

以来ずっと活用、自身の状態が下り坂にいたという自覚の時に読むと復活できるし、今の自分の状態がわかる「定点観測本」として何度も読み返している。

精神レベルとは

その人の容姿や育ち、家庭環境や職業といった条件的なことではなく、魂のレベル・成熟度、波動の質といった心の状態のことをいう。日々どれだけ穏やかに、幸せを感じながら生きられるか。どれだけプラスのパワーで満たされるような行動や思考をしているか。そういうことが精神レベルを決めるもの。このプラスのパワーは、プラス思考やポジティブシンキングとはニュアンスが異なり、周りの事柄に関係なく自分の心に溜まる力。

例えば、憂鬱なことが起こった時に、それとは別の事柄で気持ちが明るくなることや、ワクワクするよう

なことをすると、自分の中にプラスのパワーが溜まる。それが溢れるくらいたくさんになると、抱えていた問題が自然に解決したりするようになる。ところが起る。そのようなことが起る。その人は全部つながっているのでは全部つながっているのでは、トラブルを解決したかったら、別の事柄でプラスのパワーを溜めればよい。

理想を夢で終わらせるか、現実にするかは自分で決められる。「夢を叶える」というのは、その人の能力や取り巻く環境といった外側のことではなく、精神レベルといった心の内側のことも、両方そろって満たす必要がある。

夢を叶えるには

精神レベルが上がって、それに適した「いいこと」が起ることは納得しやすいが、自分に必要な何かをレベルアップさせるためにやってきた、やってきてくれた、自分の実力以上に感じる試練のようなものも訪れる。それが「ジャストサイズ」の試練だ。

日常生活こそ本番

「不快に感じることは無理して頑張らない。自分にとって居心地のいいやり方が一番」というのが「運のいい人の法則」。自分らしく、ワクワクするやり方でやればうまくいくということ。

日常生活で誰にも、嫌なこと、トラブル、憂鬱な出来事は起る。そのすべての物事に対してワクワクできるような捉え方をして自分のエネルギーを落とさないようにする。日常生活で何が起っても、エネルギーをいい状態にキープし続けていくと、全く関係ないところからチャンスが舞い込んできたりする。

誰にでもある日常生活は、誰にでも運をよくするチャンスが目の前にあるということ。嫌なことを我慢してする「努力」や、認めてもらいたいと頑張る「努力」をすることよりも、「ワクワク」がまさに成功の要だ。ネガティブな方にフォーカスすれば、ネガティブ量は増える。自分の心の状態が気持ちよくなるように捉えていくと、はじめに起こることはアンラッキーに感じても、その次に起こることとは必ず変わっていく。

引き寄せの法則

クラブハウス
Clubhouse (音声配信SN

S)で、毎朝7時のルーム、「朝ボジ」(山本光子さん・山中恵美子さん主催)を聴くようになり、山中恵美子さんが開発した新たな速読法、「瞬読」を知り、何冊かの読書で挑戦中だ。

『瞬読』は、民放、朝の情報番組で紹介されたり、読売新聞にも現在の最新刊『1分間瞬読ドリル』の広告が載った。←←



記憶力、思考力、判断力などのアップが期待される、家族みんなで楽しめる脳トレドリル。ゲーム感覚で脳を活性化、お勧め本だ。

7月に新刊ノート術本発刊予定

世界的に著名な作家、本田健さんが、これまでの訳書と違い、難解だった「引き寄せ」の本質、あの伝説の名著を新たにわかりやすく、そして「ですます調」で読みやすく生まれ変わらせた『新訳 引き寄せの法則 エイブラハムとの対話』を有難く拝読した。



本田さん曰く、今回の新訳で一つのポイントは、「引き寄せ」とは、こちらが一方的に欲しいものを取りにくい、という感覚ではなく、「お互いに引き合っている」

「引き合いの法則」というところ。そして、セルフイメージを上げて、最高の自分になって望むものに引き寄せられるというよりも、「窓を開けたら新鮮な空気が入ってくる」かのようにならなければならず、そのまま受け取る、受け入れるという感覚が重要だという。

「引き寄せの法則」とは、「類は友を呼ぶ」というのがまさにそうで「似たものは、引き寄せられる」という法則。たとえば不機嫌な気分が朝起きると、その日は1日にわたって、ますます不機嫌になるようなことが起こっていく。病気の話ばかりしている人が、実際に病気になるったり、豊かさについてずっと話している人が豊かになることなど。望む、望まないにかかわらず、誰もが常に考えてい

るものと同じ要素のものを

受け取るというもの。

私たちに、物質界ではない別の次元に、「内なる存在」という目に見えないものがあり、「感情」を通してコミュニケーションをとる。その「感情」というナ

ビゲーシジョンシステムは、24時間休みなく稼働している。そして、ポジティブな感情の波動は、「内なる存在」で波動が一致している。今の心の状態、どんな気持ちでいるかが「引き寄せの原点」となり、どんな思考で行動するか、出会いなど、まさに人生のすべてにおいて、この「引き寄せの法則」が作用している。

では具体的にどうやって引き合って、ワクワクするような理想の人生、未来を創り上げていくのか。

・望むものを明確にして「〇〇したい」という願いではなく、「〇〇する」と、良い気分を意図すること。

くしたいと思っても、できなかったらどうしようと思

うとそちらを引き寄せる。理想の未来を想像して、無理に頑張ろうとするのではなく、朝起きた時から夜寝るまで、いつもワクワク

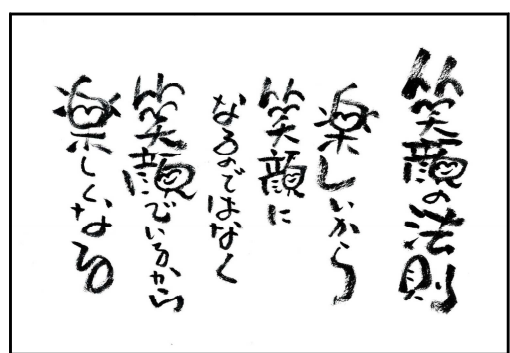
いい気分の状態にして、ただ受け取るという感覚。

・ネガティブな感情が湧いてきたら、一旦立ち止まり、その感情が湧いた時に何を考えていたかを確認する。

・感情には、心地よいか、よくないかの2種類のみ。自分にとって、最適なことへの導きは、本当の自分、すなわち「内なる存在」が最も信頼できる。気分がよい時はその自分の意図に沿って考え、行動している

最幸のキーワード

「ワクワク」



同様にずっとハマってきた思考法の師匠に、斎藤一人さんがいる。振り返ると、10年前の8月号の当紙で、書籍『すべてがうまくいく 上気元の魔法』を取り上げていた。一人さんは、機嫌のこころを「気元」と表現。奇跡を起こし続けてきた理由は「いつも上気元でいること」だという。

どんなに周りが不機嫌でも、自分ひとりでも「上気元」でいる。「上気元」をまいている人間には、「上気元な出来事」が起こる。不機嫌のタネをまいたら、それを必ず自分で刈り取る時が来る。「上気元の奇跡」を起こすと、もう不機嫌ではいられない。周りの人の不幸も、自分のところで跳ね返して、周りにどんどん上気元を伝染させていきましよう！と結ばれている。

実はその2012年には、表面登場の鴨頭嘉人さんに会った。しかも、当時大尊敬していたという、大嶋啓介さん(現在ではお二人で「人間力大学」も運営されている)との初コラボ講演会だった。以来、たくさんの精神レベルの高

い方たちと縁をいただいていた。ワクワク上気元で伝染、恩送りしていきたい。

不機嫌になってしまいう原因に、人との比較がある。一番重要なのは、自分にないもの「よりも」あるもの「に意識を向けること」。「当たり前」の反対は「有難い」。あるものに目を向けて、手を合わせて感謝で生きる。誰が何と言おうと、自分は根柢なく素晴らしい。

日本講演新聞主催の講演会(ZOOM)で9年ぶりに、喜多川泰さんの講演を拝聴。「生涯学生でいよう」という演題、感動溢れる内容から一つご紹介する。読書をする(こと)読書道(で感動できる人になってほしい。「感動」とは、元は「感動」からきている。「即」がないと、空いた間には「損得」が入って、考

えて動けなくなる。読んだ後に即行動を、とのお話。この教えは、先月号で紹介したおせっかい協会、高橋恵さんの「即速行動」も同じ。そして、浅見帆船子さんの「直感」は、思いついた直後が一番「熱い」ので48時間以内に行動に移すというルールも同様。行動の滞りは、人生の滞りだという。直感「内なる存在」に潜在意識からのサインとして受け取り、気づいたら、ワクワク即速行動できる人でありたい。

編集後記

「即」がないと、空いた間には「損得」が入って、考えて動けなくなる。読んだ後に即行動を、とのお話。この教えは、先月号で紹介したおせっかい協会、高橋恵さんの「即速行動」も同じ。そして、浅見帆船子さんの「直感」は、思いついた直後が一番「熱い」ので48時間以内に行動に移すというルールも同様。行動の滞りは、人生の滞りだという。直感「内なる存在」に潜在意識からのサインとして受け取り、気づいたら、ワクワク即速行動できる人でありたい。